

「こんにちは！知事です」（令和元年11月14日（木）十和田市立四和小学校） 概要

知事が小・中学校の皆さんと交流し、将来への期待等について意見交換する「こんにちは！知事です」について、十和田市立四和小学校での実施概要をお知らせします。

全校児童による合唱や、小中併置校の特色を生かした複数学年による特徴的な教育活動の紹介後、代表児童5名と知事が意見交換を行いました。

（参加：全校児童44名）

（発言児童1、6年男子）

将来、学校の先生になって皆に教えることで、たくさんの人に勉強を好きになってもらい、いろいろなことに興味を持って学習してもらいたいと考えています。

知事は、小学生の時、どんな子どもで、どんな遊びをしていましたか。子どもの頃の学校の様子も含めて教えてください。



（知事）

子どもの頃は、百石町（現在のおいらせ町）で育ちました。

小学校の時は、今と同じくらい元気で明るい子でした。昔から、髪がふさふさで、髪の毛がすぐ伸びるので、それを切るお母さんがいつも苦労していました。

子どもの頃の一番の遊びは、缶蹴りでした。今、やっていないだろうな。空き缶を蹴って、鬼がそれを取りにいったら100数える間に隠れて、鬼が見つかるのです。ゲームが無かったから、スケートをしたり、竹スキーをしたり。昔は車が少なかったので、いろんな遊びができました。今の遊びとは違うだろうな。あとは、トランプもやっていました。知らないよね。ゴニンカン。ゴニンカンのほかに、おばあさんたちから花札も教えられました。テレビゲームはなかったけど、近所の人もすごく濃い人間関係で、おばあちゃん方から子どもまで一緒に、冬の間はそんな遊びをしていました。

とにかく昔から元気でうるさかったので、いつも静かにしなさいと怒られていました。「しゃべらないでマンマけえ」「しゃべらないでテレビ見てろ」とか言われていました。とにかくしゃべる子でした。

学校の先生になってくれるというので期待しています。実は今、教員採用試験を受けてくれる人が少なくなって困っています。



（教職員課）

皆さん、自動車を運転するのに運転免許証というのが必要なのは知っていますか。学校の先生になるためにも免許が必要です。教員免許といいますが、小学校の先生は小学校の、中学校の先生は中学校の、高校の先生は高校のというように、学校の種類ごとに免許が分かれています。

皆さんには、国語、算数、理科、社会と全部の授業を同じ先生が教えていると思いますが、中学校、

高校になると、各授業をそれぞれ担当する先生が教えてくれます。そのため、中学校や高校では、国語、英語、数学など、授業ごとの免許が必要になります。

では、教員免許を取るためにはどうすればいいのか。「教職課程」という専門の授業を行っている大学で、一生懸命勉強する必要があります。

免許を取った後、どうすれば学校で働くことができるかということですが、青森県で先生になる場合、免許を取ったら県の教育委員会に申し込んで、先生として採用されるためのテストを受ける必要があります。

たくさん勉強するためには、風邪をひいて学校を休んだら勉強できないので、早寝早起き、青森県の野菜を好き嫌いなくたくさん食べること、規則正しい生活習慣を今から身に付けることなども必要です。

また、他人のことを思いやることのできる心を身に付けてください。学校の先生になるために最も大事なことです。子どもたちに愛情を持って向き合っていくということです。人は一人ひとり、皆違います。男の人も女の人も、また、病気の人、体の不自由な人など、いろいろな人が生活していますよね。その違いを理解して、他の人のことを考え、思いやることのできる心を育んでください。

学校の勉強以外にも部活動や学校の行事で友達と一緒に頑張ったり、地域のお手伝いをしたりと、いろいろなイベントなどに参加してみてください。学校の勉強だけで教わることのできないいろいろな体験も、将来きっと役に立つと思います。

最後に、皆さんの生まれ育ったふるさとの良いところをたくさん学んで、四和小学校の先生のように立派な先生になってください。

(知事)

一生懸命勉強しなきゃいけないし、早寝早起きで、好き嫌いがあっちゃいけないみたい。

あと、25m泳げないといけないようだけど、泳げる？

(教職員課)

小学校の教員採用試験では、水泳が必須になっています。

(発言児童1)

50mぐらい泳げます。

(知事)

将来、青森県で先生になってくれたら嬉しいと思います。今から4科目だけじゃなく、英語も含めてしっかり勉強してください。



(発言児童2、6年男子)

僕の将来の夢は、小学校の先生になることです。今まで、誰にでも優しく丁寧に教えてくれる先生にたくさん出会えて、僕もそういう人になりたいと思ったからです。

そこで質問です。知事が今まで出会った先生の中で印象に残っている先生はいますか。その先生は、どんな先生だったか教えてください。



(知事)

小学校の校長先生の集まりで県の取組を説明する際に、私が必ず言うのは、とにかく子どもを好きでいてくださいということです。子どもが好きということが、先生として一番大事なことだと思います。大人になったら、子どもが好きな先生を目指してください。

どんな先生がいたかという、小学校の先生で一番心に残っていて、今でも思い出すのは、今だったら絶対ありえませんが、二日酔いでも学校に来るすごく楽しい先生のことです。「わぁ(私)、昨日楽しくて飲んだ。飲んだけど、君たちに今日も会いたくて来たんだ。おめんど大好きだ」と。一生懸命なんです。とにかく子どものことを一番大事に考えて授業してくれたり、いろいろ問題が起こっても間に入って、両方の話をちゃんと聞いてくれて、絶対に怒ったり、怒鳴ったりせずに教えてくれるすごく大好きな先生がいました。

あと、弘前大学の教育学部を卒業して初めて赴任してきた先生で、子どもたちに相談する女性の先生もいました。授業で教える内容を忘れ、「先生になって失敗だったかしら」とつぶやくと、「そんなことないですよ、先生、いいですよ」と逆に子どもたちが気を遣っていました。でも、すごく一生懸命な先生で、楽しかったです。

ちょっと変わった、でもすごく子どもが好きな先生がたくさんいてくれて、私はとても幸せでした。この学校も、君たちのことを本当に守ってあげたいという先生ばかりだから、こういった先生方と学べるのが素晴らしいと思ってください。

私は東京大学に入って英語の授業の時に、「三村君、何になりたいの?」と聞かれ、「外交官になってみたいです」と答えたら、「英語をしゃべってみて」と言われたことがあります。それで「アイハバペン (I have a pen)」と答えたら、「すごい、三村君。こんなに訛った英語を話すのはすごいね」と言った面白い英語の先生がいたことを今でも覚えています。



(教職員課)

先ほどお話しした内容と基本的には同じです。

まず、教員免許が必要になります。あと、学校に勤めるために青森県の教員採用試験、テストを受ける必要があります。

小学校の先生は、1人の先生が全部の教科を教える必要がありますので、先ほど「一生懸命勉強してください」と言いましたが、特定の授業ばかり頑張るのではなく、運動も含めて幅広く勉強してください。

もう少し先になれば、小学校でも英語を教えることになるので、英語も一生懸命勉強する必要があります。

ります。

(知事)

ラジオ体操第2は難しいけど大丈夫かな。(体操する生徒を見て) ぼっちりだ。ということで、体育もちゃんと頑張ってください。

(発言児童3、4年女子)

私の家では牛を30頭ぐらい飼っています。夏休みに1年生の弟と一緒に子牛が産まれるところを父に見せてもらいました。父が「逆子の仰向けだ」と言って、獣医さんと呼んできました。その子牛は無事に生まれ、その時、私も子牛を産ませてみたいと思い、獣医になりたいと考えています。



質問です。青森県に獣医さんは何人くらいいますか。そして、その数は足りていますか。教えてください。

(知事)

実は今、行政では獣医師が足りなくて困っています。獣医師はとても大切な仕事です。

昔は、この十和田の地域は馬産地でした。馬がトラクターや耕運機の代わりに農業をしてくれたり、荷物を運んでくれたので、たくさん生産していました。その後、自動車などができてきたので、県では今、牛を奨励しています。本当に30頭も飼ってくれてありがとう。

5年に1度の和牛の全国品評会があり、去年は宮城県での開催でしたが、負けました。次は鹿児島県で開催されますので、大きな牛を作って優勝しようと思います。

では、獣医師資格のある2人の職員が説明をします。

(畜産課)

私は五戸町出身で、同じように小さい時に牛を飼っていて、獣医師になりました。太田さんもぜひ獣医師になってくれたらと思います。

獣医師は、家畜の健康を守るほかに、皆さんの好きなお肉の検査など、人の健康を守る仕事をしています。

県内には550人ぐらいの獣医師がいます。私たちのように公務員獣医師のほかにも、産業動物と言われる牛や豚などの獣医師、犬や猫を診療している小動物の獣医師、大学等でいろいろ研究をしている獣医師がいます。

産業動物の獣医師は、牛や豚などの家畜の病気を治したり、家畜が病気にならないように指導したりしています。小動物の獣医師は、犬や猫など、いわゆるペットの病気を治したり、飼い方を教えたり、人と同じように健康診断をしたりしています。私たち公務員獣医師は、牛、豚、鶏などが病気にならないように指導したり、動物との触れ合い活動をしたり、肉や食べ物を安全、安心に食べられるように検査したりしています。そのほか、この地域にも北里大学がありますが、大学で獣医師になるための勉強を教えたり、いろんな研究をしている獣医師もいます。

10年前と比べて、獣医師の数は、全体数と小動物獣医師数はそれほど変わっていませんが、公務

員獣医師と産業動物獣医師の数は、だんだん減ってきています。

（保健衛生課）

私からは、公務員の獣医師がどんなことをしているか説明します。

獣医師の仕事といえば、動物の具合が悪くなった時に治すことを考えると思いますが、県庁の獣医師はそれとは少し異なる仕事をしています。

例えば、農家が飼っている牛から血を採り、健康かどうか、病気にかかっているかを診断したり、牛肉、豚肉、鶏肉などの肉を食べて大丈夫か、1頭ずつ検査したりしています。皆さんはスーパーなどで県産の牛肉や豚肉などを見かけたら安心して食べてほしいと思います。私たちが検査しています。

保健所にも獣医師がいます。保健所では、コンビニなどに行って、例えば、おでんの鍋の中が綺麗になっているかチェックしたりしています。スーパーやレストラン、あるいは皆さんが食べている給食を作っているところも点検して、食中毒が起きないように検査をしています。また、食品工場で、髪の毛とか入ったりしていないかなど、衛生状態を点検して、皆さんに安全な食べ物を届ける仕事をしています。

それから、動物愛護センターでは、迷子の犬や猫を保護し、飼い主や、次に飼ってくれる人を探す仕事をしています。ペットのしつけ方や飼い方の相談にも応じています。動物愛護センターは楽しいところなので、ぜひ遊びに来てほしいです。

このように、県庁には144人の獣医師がいて、県内全域でいろんな仕事をしています。皆が安心・安全に暮らせることに役立っています。

とてもやりがいのある仕事ですが、残念ながら公務員獣医師の数は減ってきていますので、ぜひとも将来青森県庁に来てくれればと思います。

獣医師も国家試験で資格を取る必要があります。資格を取れる大学は全国に16か所あります。十和田市には北里大学がありますが、それ以外にも全国にあります。

獣医師になるには、人の医師と同じ6年間大学に通わなければなりません。授業料も必要です。ただ、そういう心配をしないで皆さんが勉強できるように、将来青森県庁の獣医師になる予定の方には、修学資金を貸しています。貸付金ですが、青森県に定着すれば返還が免除される支援制度もありますので、ぜひとも、皆さんも獣医師を目指して勉強していただければと思います。

（知事）

十和田にせっかく大学があるから目指そう。

今、豚コレラという病気が出てきましたが、絶対に青森県の養豚を守りたいと思っています。動物を守るだけでなく、人の暮らしも守る獣医師はとても大切な仕事なので、将来、頑張ってください。

勉強で好きな教科は何ですか。



（発言児童3）

算数と理科です。

（知事）

ばっちりだよ。頑張ってくれたら嬉しいです。でも、自分の人生だから、どこに行ってもいいけどね。

(発言児童 4、5 年女子)

私は、青森県で美味しい野菜を作って、たくさんの人に美味しいと言ってほしいと思っています。それに農業をしている父や母に憧れて、私も将来、農家になりたいと考えています。私の家では、焼いた長いものに味噌を塗って食べています。美味しいのでおすすめです。



質問です。青森県の長いもやごぼうをもっとたくさんの人に食べてもらうにはどうしたらいいですか。また、最近、野菜が苦手な人が増えてきていると思います。野菜好きに

していくためには、どうしたらいいでしょうか。良いアイデアがあったら教えてください。長いもやごぼうなどの青森野菜や県産品のPRをこれからもよろしくお願いします。

(知事)

分かりました。しっかりやります。農業をやってくれるという言葉聞いて、本当に感激しました。今まで「攻めの農林水産業」に16年間ずっと取り組んできて、いろんなセールスもしてきました。長いもやごぼうも応援してくれるっていうのはすごく嬉しいです。今週は倉敷市と高松市で青森県のフェアをします。先週は、広島市でフェアをやってきました。このように、秋は土日になるとほとんど毎週全国に行って青森県のキャンペーンをしています。

かつて、ごぼうで九州と競争したことがあります。ごぼうの美味しさを競ったのです。青森のごぼうはなぜ甘いのかと九州の人たちは言っていました。私たちは普段からごぼうは甘いと思って食べていますが、青森県では豊かな森からの栄養分が水に入っているのです、甘くなるのです。

キャンペーンとともに、安全・安心で本当に美味しいものを作ろうということが一番大切に16年間やってきました。青森県の品物は、日本だけでなく、ほとんどのアジア各国に輸出していますが、各地ですごく美味しいと評判です。

また、青森県は今、若い農家の方々がどんどん増えています。平成14年当時に比べて、農家所得は全体では2.3倍に増えましたが、5倍に増えたと言っている農家もいます。特にこの地域だと、にんにく、長いも、ごぼうなどがたくさん採れるので、農家の皆さんがきちんと美味しいのを作ってくれたら、売る方は頑張ります。一緒にやろう。

(食の安全・安心推進課)

たくさんの人に野菜を食べてほしいという気持ちで、私たち県庁でもいろいろなところで様々な取組をしています。

私からは、食の安全・安心の関係での取組を紹介します。ごぼうや長いも、にんにく、にんじんなどは全国トップクラスの収穫量です。

(知事)

長いもはトップだったけど、北海道に抜かれて今は2位です。長いもが1位を取り返せたら、長いも、にんにく、ごぼうでトップになるんだけど。



(食の安全・安心推進課)

これら、全国トップクラスの収穫量で美味しい野菜は、品質も高く評価されています。私たちは、このようなとても美味しく健康にも良い野菜をたくさんの人に食べてもらうために、「野菜で健康大作戦」というキャンペーンを、野菜がたくさん出回る毎年8月31日から11月30日までの秋の期間に展開しています。831で野菜ということで、8月31日から始めています。

県内の飲食店やスーパー、産直施設に協力してもらって、美味しい野菜の食べ方を宣伝してもらったり、野菜にはどんな健康成分があるかをPRしてもらったり、いろいろ協力してもらっています。それから、保育園や幼稚園の子どもたちを県内の農業高校に連れて行って、いろいろな体験をしてもらっています。ちょうど今日も三本木農業高校で大豆関係のイベントをやってもらっているところです。また、具体的に野菜をどうやって食べるかを伝える調理講習会もやっています。

(知事)

お肉もたくさん作っていて美味しいのですが、青森県の野菜の美味しさは、突き抜けて美味しいんですよ。もっと美味しく食べる方法を伝えるために、一生懸命やっているということです。

(総合販売戦略課)

先ほど知事がお話したように、週末に県内だけではなく、県外、全国各地を飛び回ってPRしています。野菜だけではなく、果物、お米のほかに、お肉や水産物も含めた農林水産物全般を全国各地でPRしています。そこには、知事だけではなく若手の農業者も行って、土づくりにも力を入れていることを伝えるために、実際に土も持っていき、こういう土で作っているんですよと見せながら、生産者の思いも併せてPRしています。

(知事)

日本一健康な土づくり運動とあって、特に十和田の場合は、ミネラルがいっぱいで良い土だということをチェックしています。本当にすごいですよ。

(総合販売戦略課)

そうしたことをずっと続けてきたら、所得がどんどん上がってきました。始めた頃に比べると2倍以上です。農業は儲かる職業になってきています。

その結果、農業を始める人も最近は増えてきました。近年は250人ぐらい、新しく農業を始める人が毎年出ています。将来農家になって一緒に農産物を作り、知事と一緒にPRに行ってもらいたいと思います。

(知事)

新規参入やUターン、Iターンという形で、新しく農業をやってくれる人が増えてきました。それが青森県の嬉しい特徴です。農業が「食える」職業になったからです。

(総合販売戦略課)

野菜をもっと食べてもらうためのアイデアですが、県内にたくさんある食材から出る出汁に注目して、県では、「だし活」という取組をやっています。今年6年目になりました。

出汁の力で美味しく減塩する取組ですが、出汁には野菜を美味しくしてくれる力もあります。「だし活」で、野菜もどんどん食べてもらえるようになるということです。

今年からは、「だし活」に加えて、野菜を食べると、体の中の余分な塩分を出してくれるので、野菜をたくさん食べて余分な塩分を出し、塩分摂取を少なくしましょうという「だす活」もやっています。

(知事)

青森県民はしょっぱいものが好きです。皆さんの中にもカップ麺が好きな人もいますでしょう。

しょっぱいものをたくさん食べていると、高血圧になって「あたる」、つまり脳卒中になったり、心臓が止まったり、腎臓が使えなくなったりして大変です。

県では、しょっぱいものをあまり食べないようにしよう、出汁を使って、美味しくして塩分を減らそうということをやっていましたが、野菜を食べると、野菜に含まれるカリウムが塩分のナトリウムを体から出して元気になるので、塩分を「だす活」というのを今やっています。皆も覚えてね。野菜はほうれん草でもいいし、ピーマンでもいいし。



(総合販売戦略課)

それ以外にも、県産品を買って応募すると県産品や商品券が当たるキャンペーンもやっていました。今年は今日が最終日ですが、来年もやるので、ぜひ、来年応募していただきたいと思います。

(知事)

農業者の平均年齢は63.8歳です。(2位の山形県は65.8歳なので)平均年齢で2歳違うというのは大変なことなんです。青森県は東北で1番、全国では2番目に平均年齢が若くて、東京都よりも農業者は年齢が若い。冗談のような本当の話です。

酪農で若い農業者が多い(全国1位の)北海道ほどではありませんが、このぐらい青森県の農業は元気になっているということです。

(がん・生活習慣病対策課)

体と野菜の話をしたと思います。

先ほど学校の先生や獣医師になりたいというお話がありましたが、私は栄養士なので、皆さんの中からも栄養士になりたいという人が出てくればいいなと思っていました。

平均寿命とは、簡単に言えば、何歳まで生きられるかという年齢です。青森県の平均寿命はだんだんと延びてきていますが、順位では全国で一番短いのです。そのため、皆さんもこれから大人になっ

て、お爺ちゃんお婆ちゃんになる頃には、今の平均寿命よりも長く生きてもらいたいと思っています。

では、なぜ平均寿命が短いのかというと、例えば、食べ過ぎ、運動不足、お酒の飲み過ぎ、それから喫煙。こういう悪い生活習慣が1個、2個、3個と増えていくと、体に悪くなってしまいます。

(知事)

葉タバコは十和田市でも作っていますが、タバコは、当然子どもは吸わないけど、気を付けましょう。

(がん・生活習慣病対策課)

大人になっても吸わないように気を付けてください。

次に、野菜には、先ほどカリウムの話がありましたが、ビタミンやミネラル、食物繊維が含まれていて、体の調子を整えてくれます。野菜を先に食べると、食べ過ぎも防いでくれます。

どれくらい食べればいいのかというと、1日に両手いっぱいくらいで、とても食べられそうにない感じですが、調理して煮たり焼いたりすると、かさがギュッと縮みますので、食べられると思います。1日350gとは大人の量なので、皆さんはもう少し少な目でも大丈夫です。

質問の中にも野菜嫌いの人が増えているんじゃないかという話がありましたが、実は、青森県民の全体の平均を見ると、野菜摂取量は伸びています。伸びてはいますが、目標量では大人はあと1日50g、子どもではあと35g。キュウリだと半分かもう少し少な目、トマトでは1/3個くらい食べれば目標に達します。それくらいだと食べられそうな感じがしませんか。

先ほど「だし活」の話もありましたが、野菜がたっぷりのメニューを出す飲食店に「青森のおいしい健康応援店」のマークを出しています。この地域では、30から40店舗くらいあるので、お店に入った時に探してもらえれば楽しいと思います。あと、スーパーなどで健康の知識を増やしてもらう取組もやっています。全てのスーパーではありませんが、数十店舗でやっているのでも、スーパーに行く機会があったら探してみてください。また、高血糖ストッパーズというPRチームを県職員で作って、野菜をあと1日50g食べましょうという呼びかけもしています。

こういった取組でも野菜の摂取量を増やすことができると思います。

(知事)

「だし活」はもう6年くらいやっています。野菜はトマト1個でいいから食べようと一生懸命PRしてきたら、以前よりも本当に50g増えて、嬉しいです。

平均寿命はまだ最下位ですが、50g増えることで、健康寿命は伸びてきました。今は男性が34位、女性は20位です。諦めないでやっていたら、このように変わってきました。

だから、野菜をたくさん食べてくれるように本当にお願ひします。たまにしょっぱいものも食べていいですが、野菜も食べてくれたら嬉しいです。一緒に野菜を食べよう。

(発言児童5、6年女子)

私は、車椅子バスケットボールの選手になりたいと思っています。私のような障害があってもスポーツができるということを子どもたちに教えたいし、夢や希望を与えられる人になりたいと思っていますからです。私は、スポーツを観て希望を持ちました。これから、私は、どのようにすれば夢や希望を与えられる人になれるのでしょうか。また、青森県では、私のような障害がある人でも活躍できる場所があるか、どんな人が活躍しているのか教えてください。



(知事)

本当に前向きですごくいいですね。

来年は、オリンピック、パラリンピックがありますが、青森県でも国民スポーツ大会が2025年に開催されます。その頃はまだ早いかも知れませんが、将来、選手として活躍してほしいと思っています。

では、いろんな障害があっても、スポーツで活躍している方々がいるので説明します。

(障害福祉課)

青森県の障害者スポーツについてですが、障害者スポーツの活動拠点として、青森市に青森県身体障害者福祉センターねむのき会館という施設があります。

ねむのき会館には体育館があり、そこで様々な障害者スポーツを実施しています。障害者スポーツに親しみを持ってもらったり、健康づくりや仲間づくりのためにスポーツ教室を開催しています。

車椅子バスケットボール教室は、土曜日の3時から1時間半、月1回土曜日やっていて、ねむのき会館に問い合わせをすれば、どうすればいいのか教えてください。

県内には、青森県車椅子バスケットボール連盟という団体があります。同連盟で、今年8月にマエダアリーナで第4回青森カップを開催しました。函館、秋田、青森、山形の4チームで大会をやって、函館のチームが勝ったと聞いています。

県内で連盟に所属しているチームは、青森ジョップス1チームのみです。津軽弁の「じょっぱる」から由来し、ジョップスとなったと聞いています。登録選手は9名いますが、そのうち女性1人がU(アンダー)25の日本代表に選考されています。

続いて、車椅子バスケットボール日本代表のパラリンピックでの成績です。男子は北京大会で7位、女子はシドニー大会の銅メダルが最高成績です。

女子日本代表には宮城県出身の萩野選手がいます。萩野選手は、脊椎の腫瘍で幼少から車椅子生活でしたが、地元で開催された車椅子バスケットボールの合宿を見て、車椅子バスケットボールを始めたいということです。2009年から男女混成チーム「宮城MAX」と女子車椅子チーム「SCRATCH」に所属しています。特に「宮城MAX」では日本選手権10連覇、「SCRATCH」でも2011年の女子選手権優勝に貢献しています。非常に頑張っている選手が東北にもいるのです。

青森県では、2025年の国民スポーツ大会の終了後、全国障害者スポーツ大会が開催される予定です。パラリンピックと同じで、車椅子バスケットボールも行われることになっています。

県では、今年度からそれに向けた選手の育成強化に少しずつ取り組んでいます。車椅子バスケットボールでは、車椅子バスケットボール連盟と提携し、選手の発掘や一流指導者を招いた講習会など、

様々な強化策を考えているところです。

将来的な選択肢を考えてきました。

2025年には高校3年生になっていると思いますが、全国障害者スポーツ大会の車椅子バスケットボールの代表選手がまず一番の目標になるのではないかと思います。その中で、周りの人たちに勇気と希望を与えられる人になってもらいたいと思います。選手でなくても競技運営を支える競技の補助員というのもあります。将来は、世界に羽ばたく国際審判員という道もありますし、地域の障害者スポーツを支える障害者スポーツ指導員という職種もあります。

いろんな道がありますが、県は夢に向かって頑張る皆さんを今後もサポートしていきたいと思いますので、頑張ってください。

(知事)

頑張ってください。13歳になったら選手になることができるし、これからいろんな未来が拓けると思うので、今の笑顔と前向きな気持ちを忘れないで前進してください。

司会者からも将来の夢をお願いします。

(司会児童、6年男子)

ラグビー選手です。

(知事)

ラグビーの選手になるには、野菜も肉もたくさん食べて、健康でもりもり筋肉を付けてください。将来の夢に向かって頑張ってください。



(司会児童)

これで意見交換を終わります。三村知事からの感想をお願いします。

(知事)

最初に歌声ですごく感動しました。だから、私たちも皆で盛り上がりそうと思って「だし活」+「だす活」ダンスをやらせてもらいました。

今日、5人の方とお話ししましたが、皆それぞれに、将来に向かって自分の夢をしっかりと持っていて、その夢に向かって自分が何をしたらいいのか、どうやったらその夢がかなって前進できるのか考えている、そういう気持ちがすごく伝わってきました。

今日は低学年の子もいますが、ちゃんと夢を持って頑張ってください。夢をかなえるために先生たちは応援してくれます。

ここは素晴らしい学校です。皆で力を合わせて、この素晴らしい学校からどんどん素敵な仲間たちを育てて、皆で仲良く未来に向かって進んでくれたらいいと思いました。

県としても、皆の夢が実現できるような青森県にしていけるために、しっかりと青森県でご飯を食べていくための仕組みを作ったり、健康の仕組みを作ったり、学べる仕組みを作ったり、スポーツの仕



組みを作ったり、いろんな仕組みを丁寧に整えなきゃいけないと強く感じました。

知事として皆さんに感謝します。

この地域で皆さんのために現場で働いてくれている地域県民局長からも、一言子どもたちに激励を。

(上北地域県民局長)

皆さんが住んでいる十和田市、三沢市と7町村を対象に、地域の特性に合わせて農業などの産業を育てたり、道路の維持・改修をしたり、洪水が起きないように堤防とかダムを作ったりしています。

ぜひ皆さん、働く時は、この上北地域、十和田市に戻ってきて活躍してください。私たち上北地域県民局は、皆さんのお仕事を支える仕事をしていますので、頼ってきてください。

特にこの上北地域の農業産出額は、青森県の中でも一番です。畜産も盛んで、牛を育てたり、農業でも美味しい野菜を作ったりと、多くの人材がこれからもこの地域で必要になりますので、皆さんの力をお借りしたいと思います。ぜひ戻ってきてください。

私はカーリングをやっていますが、車椅子カーリングという競技種目もあります。青森県には、日本選手権で何回も優勝して世界のチームと戦っているチームがあります。いろんな形で活躍できると思いますのでチャレンジしてみてください。

(知事)

今日は本当に素敵な時間をありがとうございました。

